

日・米・ブラジルの国際協力で実現！ISS ならではの成果

「きぼう」日本実験棟のロボットアームから ブラジルの超小型衛星を放出



2月5日（木）午後9時50分に放出されたブラジルの超小型衛星 ©JAXA/NASA

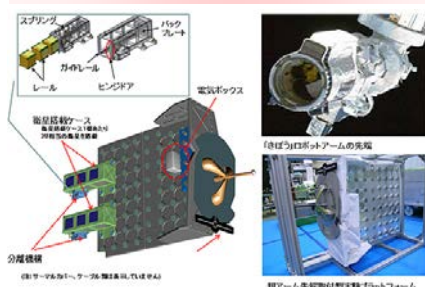
「AESP14」は一辺わずか10センチの立方体で、重さは1キロというミニミニ衛星

2015年2月5日（木）午後9時50分、「きぼう」日本実験棟からブラジル国立宇宙研究所 (INPE) 及びブラジル航空技術大学 (ITA) が開発した超小型衛星 AESP14が放出されました。

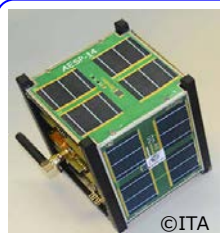
放出には CubeSat 規格 (10cm×10cm×10cm) の超小型衛星を、「きぼう」のエアロックから搬出し、所定の軌道に向けて放出するために JAXA が開発した、「小型衛星放出機構 (J-SSOD)」が使われました。今回を含む「きぼう」からの超小型衛星放出は6回目となりました。

AESP14 は赤道上空の電離層の観測などを目的に開発された衛星で、1月12日にアメリカのドラゴン補給船運用5号機でISSに運ばれました。

これが小型衛星放出機構だ



超小型の人工衛星を「きぼう」日本実験棟のエアロックから搬出してロボットアーム先端に取り付けた放出機構で打ち出し、軌道に乗せる仕組み。



AESP14 は、「きぼう」からの超小型衛星の放出機会提供 (有償の仕組み) を利用し、有人宇宙システム(株)がブラジル宇宙庁の要請を受けて打ち上げを支援した。



小型衛星放出機構は「きぼう」のエアロックを通じて船外へ移動する。若田宇宙飛行士が放出作業した時の様子 (2013年)

さらに詳しく知りたい方はコチラ



<http://fanfun.jaxa.jp/feature/detail/2960.html>

「きぼう」からの小型衛星放出について JAXA の和田勝 (わだまさる) 主任開発員が、日本独自の放出の方法や将来の展望を解説しています。

Spacei 宇宙かわら版 2015年2月12日号

問い合わせ先: Spacei 事務局 (一般財団法人日本宇宙フォーラム)

ホームページ: <http://www.spaceinfo.jp/> お問い合わせ: https://www.science-event.jp/event/spacei_contact/

※特に断りのない限り日時は日本時間です。©JAXA/NASA、ITA

Spacei